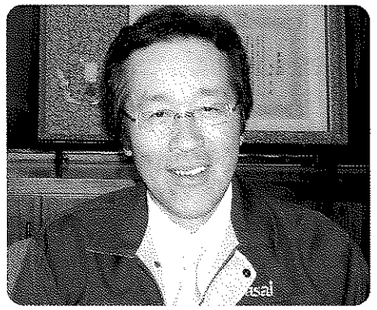
会員企業訪問

顧客とのダイレクトコミュニケーションをベースに幅広い商品展開

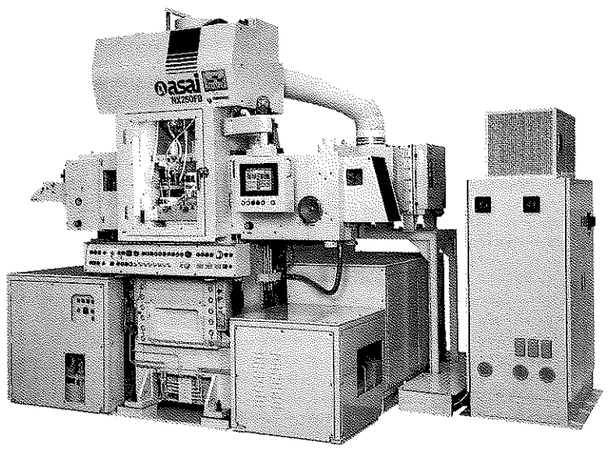
アサイ産業株式会社

油圧プレスを中心に企業基盤を構築

アサイ産業は1947(昭和22)年、浅井嘉蔵会長の創業による。機械メーカーの集積が高い北陸の地にあって、油圧プレスを中心に企業基盤を築いてきた。機械メーカーとしてのスタートを切ったのは昭和40年代から。1978(昭和53)年にコマツプレス機の受託生産を、1982(昭和57)年に自社ブランドの油圧プレスを生産開始しプレス機製造を本格化する。自社製品の開発にあたり業務別に3社に分割。その体制は現在にまで引き継がれている。営業・販売を担当する「アサイ産業」、開発・設計を受け持つ「浅井興産」、そして生産・製造を担う「浅井鉄工」である。業務分担を明確にした効用は大きい。


浅井重晴社長

現在の年商比率は、自社ブランド機51%、コマツプレス受託生産40%、その他特注機・部品製造9%の割合。特注機受注の歴史は長く実績は大きい。顧客のニーズを組み込んだ特注機の製造でノウハウを積み上げ、仕様を標準機に集約して商品のバリエーションを広げてきた。なかでもダイスポッティングプレスは1971(昭和46)年に第1号機を製作し、既に35年の実績を有する。年間20台ほどの推移で出荷し、“アサイ仕様が業界標準”との自負を持つ。汎用小型油圧プレスに加え、深絞り用油圧プレス(1500～15000kN)、油圧式3次元トランスファープレス、油圧式トライアルプレス、油圧駆動リンクモーションプレス、油圧式高速冷間成形プレス、シートスタンピングプレス、トリミングプレス等々、商品ラインナップは多岐にわたる。


新開発のファインブランキング用ファインサーボプレスNX250FB

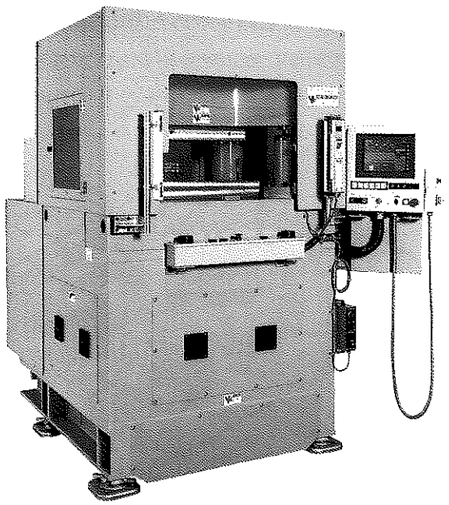
ファインブランキング用サーボプレスを近々に市場投入

幅広いラインナップのなかで現在の売れ筋となっているのが、“小型サーボプレスESPシリーズ”と“汎用C型油圧プレスHD/HCSシリーズ”。HCSシリーズはサーボ駆動方式を採用した。

汎用C型プレスHD/HCSシリーズは、圧倒的な剛性の高さをセールスポイントにして年間200台に迫る納入実績を誇る。自動車部品製造工程のカシメや圧入作業に多用されており、自動化対応に優れる。制御仕様やテーブル仕様を顧客要求にきめ細かく短納期で対応することで競争力を高めてきた。厚生労働省が定める安全プレスの型式認定も取得済みである。

プリント基板加工用の小型サーボプレスESPシリーズは、高剛性4ポイントガイド方式を採用。従来のC型プレスの弱点を克服した新鋭機。ひげの発生を解消し、機械加工の工数削減を実現した結果、納入企業では加工コストを20分の1と大幅な削減を実現したという。C型プレスでは15～20万ショットが限界だったものが、20万ショット以上のロングランも可能になった。国内では高精度基板の要求が普遍化するというニーズを先取りしての開発である。

さらにファインブランキング用の“ファインサーボプレスNX250FB”を近々に市場に投入する。リンク機構とサーボのコンビネーションにより先端速度をコントロールできることが最大の特徴。高品質のファインブランキングを実現する。従来機よりコンパクト仕様となり、省エネも実現。生産履歴の集積と加工ごとの最適条件の設定も可能となった。

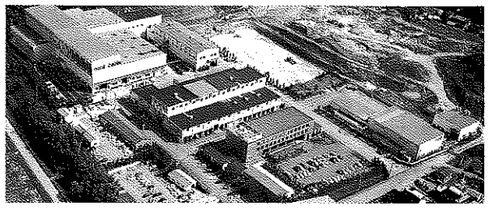

基板加工用のサーボプレスESP400D

お客様が先生です

「お客様が先生です。お客様に教えていただき、お客様のニーズを搭載した機械を開発して商品化していく。30年間一貫してこの手法を通してきました。顧客との対話が最も効果的なマーケティングなのです。小型サーボプレスのESPシリーズもC型プレスの基板加工は海外に移転し、国内に残るのは高精度基板のみになるというお客様の話に基づいて開発したものなのです」と語るのは浅井重晴社長。

それを受けて油　和之専務も「顧客との打合せは営業と設計がセットになって行います。お客様の要求にはその場で対応し、短時間で答を出すようにする。それが鉄則です。標準機でもお客様の要求に応えて何らかの改造をする。それも納期を延ばすことなく対応する。それがお客様との信頼関係を構築し、的確な技術開発につながるのです」と説明する。

顧客とのダイレクトコミュニケーションが好循環をもたらし、厚い技術集積があることがわかる。図面のデータ化も完了し、技術開発、アフターメンテナンスへの対応も万全である。


本社工場全景

■アサイ産業株式会社
本　　社　〒923-1104　石川県能美市湯谷町へ18
TEL：0761-57-2222
http//www.asai-corp.co.jp